（特集）

令和3年12月16日
大　阪　税　関

ジンの輸出

- 2021年のジンの輸出数量、金額は過去最高！
- 港別では大阪港のシェアが全国トップ！

今年ももうあと少しとなり、年の瀬を迎える頃となりました。

年の瀬といえば忘年会シーズンですが、昨年はコロナ禍で泣く泣く開催を見送られた方も多いのではないでしょうか？今年は感染予防に十分気をつけつつ、少人数でもグラスを傾けあい、お酒を楽しむことができればいいですね。

ところで、お酒といえば最近、日本産のジンの輸出が伸びているってご存じでしょうか？

ジン？と言われてもあまり馴染みのない方が多いお酒かもしれませんが、本特集では、海外でも評価が高まっているという日本産のジンの輸出について、統計データから探っていきたいと思います。

そもそもジンって何？

ジンとは穀物を主な原料とした蒸留酒（スピリッツ）であり、ウォッカ、ラム、テキーラとともに世界４大スピリッツの一つに数えられています。

他のスピリッツと異なるジンの特徴として、まず穀物からスピリッツを作り、そこにジュニパーベリーという果実（西洋ネズの実）を中心にボタニカルと呼ばれる植物由来成分を加え、風味付けをしてからもう一度蒸留を行うことにより作られる点にあります。

近年、小規模な蒸留所のもとでジュニパーベリーなどの伝統的に使われている材料のほかに珍しいボタニカルを何種類も使ったり、配合を変えたりして生み出された個性的で高品質な「クラフト（職人・工芸）ジン」と呼ばれる製品が世界中で流行しており、製造元がそれぞれの個性を競い合っています。

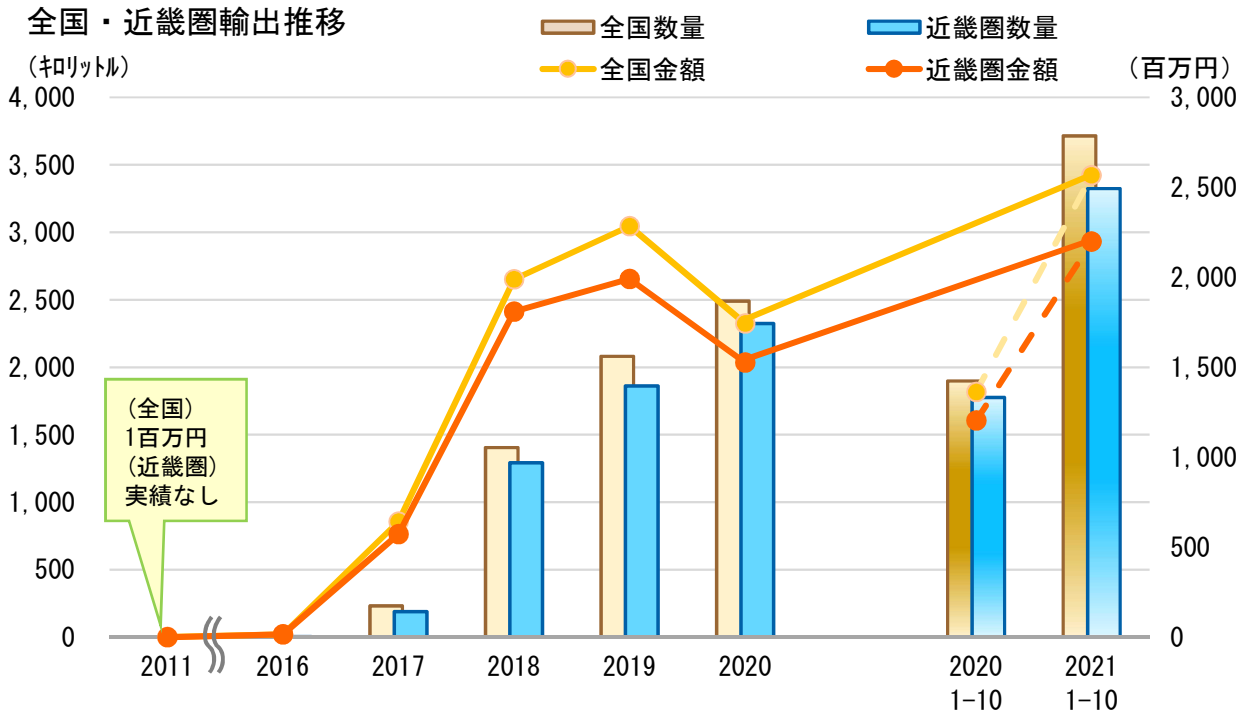
ジュネヴァとは？

ジュネヴァとは、ジンの起源とされるオランダ生まれのスピリッツです。大麦麦芽などの穀物を原料として単式蒸留して製造した「モルトワイン」と呼ばれるスピリッツを主成分とし、ジュニパーベリー蒸留液を含んでいなければならないとされています。

また、EUの原産地呼称制度（AOC）により、製造できるのはオランダとその周辺地域のみに限定されています。

〇本特集における「ジン」は、輸出統計品目表のHS2208.50-000（ジン及びジュネヴァ）に分類されるものを集計したものです。
〇過去最高は、1988年1月以降のデータを比較したものです。

輸出推移



2021年の輸出数量・金額は過去最高

2021年1-10月ジンの輸出数量は全国が3,714キロリットル、近畿圏が3,323キロリットル、輸出額は全国が2,566百万円、近畿圏が2,197百万円となり、いずれも過去最高を記録しました。

輸出の推移を見ますと、10年前の2011年には全国で輸出額がわずか1百万円、近畿圏にいたっては実績なしという状況でした。ところが、2016年より輸出実績が少しずつ出始めると、年を追うごとに輸出数量、金額は急上昇。前年の2020年こそ、輸出額が前年比マイナスとなったものの、2021年に入り再び増加に転じ、前年同期比は1-10月の比較で数量が全国で95.7%増、近畿圏で87.2%増、金額が全国で88.3%増、近畿圏で82.5%増と大きく増加した結果、一年を待たずに過去最高を更新しました。

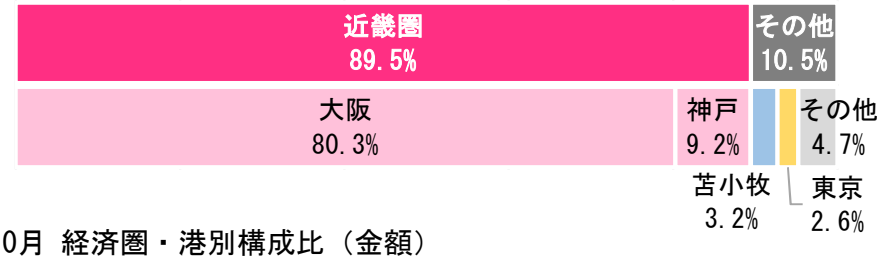
なぜ日本産のジンの輸出が増えたのか

しかし、10年前まで全くといっていいほど実績のなかったジンの輸出がこれまでに増えたのはなぜでしょうか？

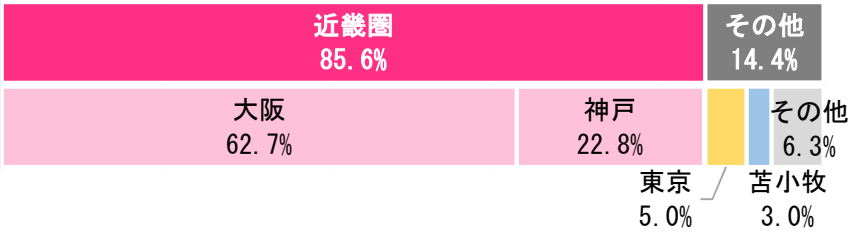
ジンの輸出が増えた理由について業界に話を伺ったところ、
先述したように個性的で高品質な「クラフトジン」と呼ばれる製品が世界的に流行し、その需要が高まってきていた中にあって、日本由来の主原料やボタニカルを用いて製造した日本独自のクラフトジンを製造、販売するメーカーが現れるようになりました。かねてより日本酒やウイスキーに代表される日本産の酒類は高品質であると海外において高い評価を受けていたこともあり、日本産のジンも比較的早い段階で受け入れられ、日本の素材由来の独特な香味や味わいが海外で高く評価されるにつれて輸出量も増えてきている、とのことです。

経済圏別・港別の動向

2021年1-10月 経済圏・港別構成比（数量）



2021年1-10月 経済圏・港別構成比（金額）



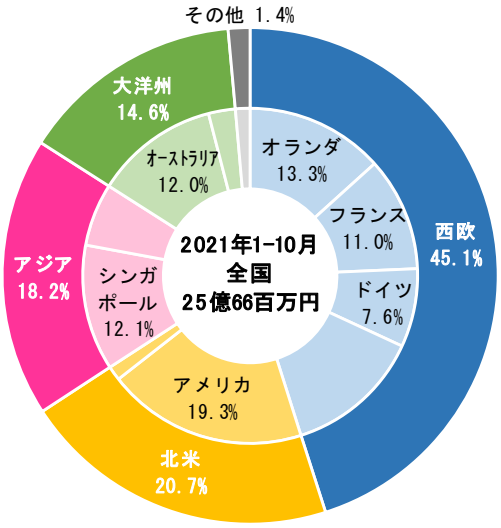
近畿圏の輸出は全国の８割以上を占めシェア第１位

2021年1-10月の経済圏・港別の実績を見ますと、近畿圏のシェアが数量で89.5%、金額で85.6%といずれも全国の８割以上を占めており、港別では大阪港が数量、金額ともにその大半を占めています。

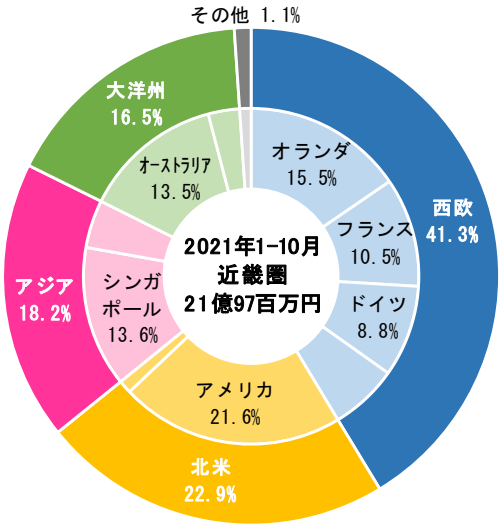
近畿圏のシェアが大きい理由ですが、ジンの大手輸出者の製造拠点が関西に所在しており、大阪港、神戸港から近いことが要因であると思われます。

地域・仕向国別の動向

2021年1-10月 仕向地別金額（全国）



2021年1-10月 仕向地別金額（近畿圏）

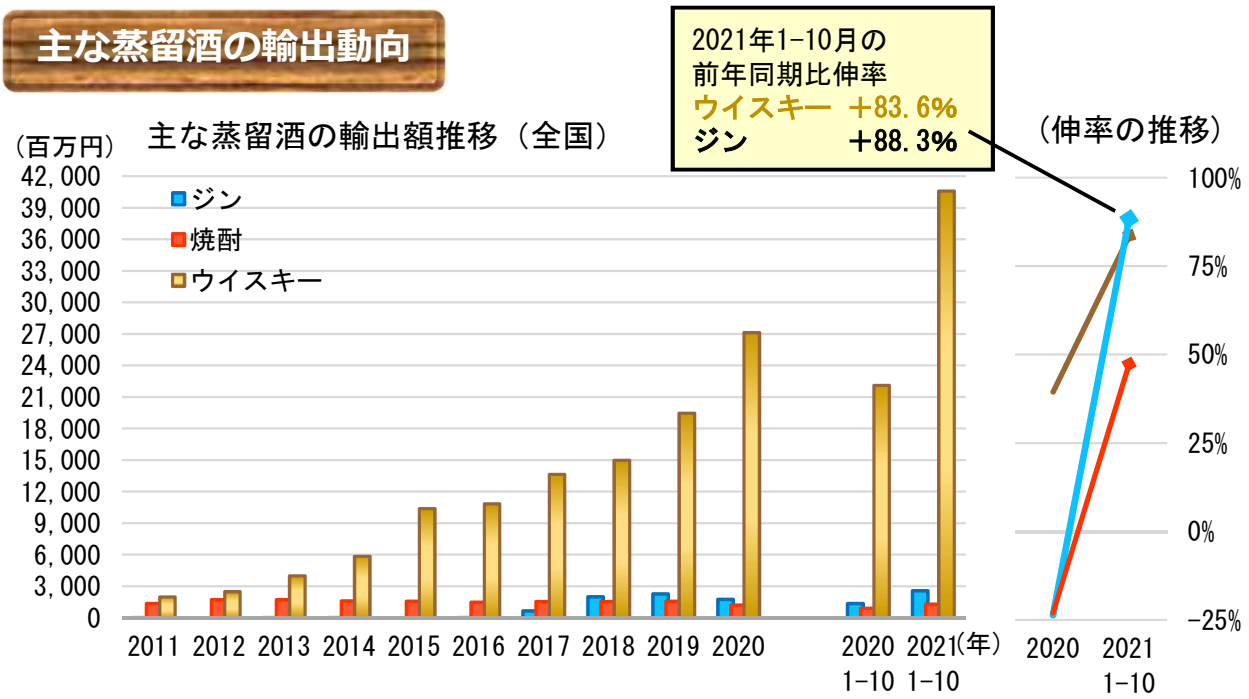


地域別では西欧、北米向けが中心

2021年1-10月の地域・仕向国別輸出額を見ますと、全国、近畿圏ともに西欧、北米の順に多く輸出されており、この２地域で全体の６割以上を占めています。

欧米ではもともと日常的にジンを飲む文化が定着しており、また、近年のクラフトジンブームにより、同地での需要がさらに高まっていることが理由であるようです。

主な蒸留酒の輸出動向



ウイスキーに匹敵する伸率

主な蒸留酒の輸出額の推移を見てみますと、近年、海外においてその品質の高さが広く認知されているウイスキーが最も多く、2021年1-10月の輸出額は40,587百万円と同品も過去最高額を記録しています。焼酎は以前より一定の輸出実績があり、かつてはウイスキーより輸出額が多い酒類でありましたが、輸出額はほぼ横ばいで推移しており、2021年1-10月の輸出額は1,305百万円と10年前とほぼ変わっていません。

一方でジンの輸出額は、輸出が急上昇した2018年に焼酎の輸出額を抜くと、さらに輸出額を伸ばしています。2021年1-10月の前年同期比を見ますと、ウイスキーが83.6%増加しているのに対し、ジンは88.3%増加しており、同様の高い伸率を記録しています。

まとめ

「ジンの輸出」の特集記事はいかがでしたか。

ジンの輸出について今後の展望を業界に伺ったところでは、日本産のジンは世界的に需要が拡大していくことが期待されており、今後、欧米だけでなく世界各地に輸出先が増えていく見通しであるということです。

また、日本国内においては今でも多くの新しい蒸留所ができていて、今後ますます多くの日本産のジンが誕生し、一大マーケットに成長していく可能性を秘めていると考えられているとのことで、今後の日本産のジンの動向に注目です。

世界でも評価が高まりつつあるジャパニーズジン。

この冬、一度試してみられてはいかがでしょうか。

まとめ

（単位は、数量：キロリットル、金額：百万円）

全国　年別輸出推移

年	数量	前年比	金額	前年比
2011	1	全増	1	全増
2012	―	全減	―	全減
2013	0	全増	0	全増
2014	0	73.8%	0	104.9%
2015	―	全減	―	全減
2016	5	全増	15	全増
2017	232	4413.0%	642	4258.7%
2018	1,405	606.6%	1,989	309.9%
2019	2,081	148.0%	2,283	114.8%
2020	2,490	119.7%	1,744	76.4%
2020 1-10	1,898	109.9%	1,362	72.6%
2021 1-10	3,714	195.7%	2,566	188.3%
		(149.1%)		(147.1%)

近畿圏　年別輸出推移

年	数量	前年比	全国比	金額	前年比	全国比
2011	―	―	―	―	―	―
2012	―	―	―	―	―	―
2013	―	―	―	―	―	―
2014	―	―	―	―	―	―
2015	―	―	―	―	―	―
2016	5	全増	100.0%	15	全増	100.0%
2017	189	3602.3%	81.6%	572	3794.9%	89.1%
2018	1,292	683.0%	91.9%	1,809	316.4%	91.0%
2019	1,861	144.1%	89.4%	1,991	110.1%	87.2%
2020	2,325	124.9%	93.4%	1,526	76.7%	87.5%
2020 1-10	1,776	116.8%	93.6%	1,204	75.3%	88.3%
2021 1-10	3,323	187.2%	89.5%	2,197	182.5%	85.6%
		(142.9%)			(143.9%)	

※2020年1-10月及び2021年1-10月の前年比は、前年1-10月の数量又は金額との比較である。

※2020年1-10月の（　）内の前年比は2020年の数量又は金額との比較である。

2021年1-10月　経済圏・港別構成比

経済圏・港		数量	構成比	金額	構成比
近畿圏		3,323	89.5%	2,197	85.6%
	大阪港	2,981	80.3%	1,608	62.7%
	神戸港	341	9.2%	585	22.8%
	その他	1	0.0%	4	0.2%
北海道圏		120	3.2%	77	3.0%
	苫小牧港	120	3.2%	77	3.0%
首都圏		101	2.7%	140	5.4%
	東京港	95	2.6%	129	5.0%
	その他	6	0.2%	11	0.4%
その他経済圏		170	4.6%	152	5.9%
全国		3,714	100.0%	2,566	100.0%

2021年1-10月分　仕向地別輸出額

地理圏・国		全国		近畿圏	
		金額	構成比	金額	構成比
西欧		1,157	45.1%	908	41.3%
	オランダ	342	13.3%	339	15.5%
	フランス	281	11.0%	231	10.5%
	ドイツ	195	7.6%	194	8.8%
	その他	338	13.2%	144	6.6%
北米		532	20.7%	502	22.9%
	アメリカ	496	19.3%	474	21.6%
	その他	35	1.4%	28	1.3%
アジア		467	18.2%	399	18.2%
	シンガポール	312	12.1%	298	13.6%
	その他	155	6.1%	101	4.6%
大洋州		374	14.6%	363	16.5%
	オーストラリア	307	12.0%	297	13.5%
	その他	67	2.6%	67	3.0%
その他地理圏		36	1.4%	24	1.1%
全世界		2,566	100.0%	2,197	100.0%

蒸留酒種類別　輸出額推移（全国）

年	ウイスキー		ジン		焼酎	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
2011	1,984	115.5%	1	全増	1,355	88.4%
2012	2,477	124.9%	―	全減	1,731	127.8%
2013	3,980	160.7%	0	全増	1,707	98.6%
2014	5,850	147.0%	0	104.9%	1,601	93.8%
2015	10,378	177.4%	―	全減	1,571	98.1%
2016	10,844	104.5%	15	全増	1,466	93.3%
2017	13,639	125.8%	642	4258.7%	1,537	104.8%
2018	14,977	109.8%	1,989	309.9%	1,530	99.5%
2019	19,451	129.9%	2,283	114.8%	1,560	102.0%
2020	27,115	139.4%	1,744	76.4%	1,201	77.0%
2020 1-10	22,112	127.3%	1,362	72.6%	886	67.1%
2021 1-10	40,587	183.6%	2,566	188.3%	1,305	147.3%

※2020年1-10月及び2021年1-10月の前年比は、前年1-10月の金額との比較である。

〇2021年（令和3年）1-10月分は確報値、2020年（令和2年）以前は確定値となります。
〇本特集における各経済圏は以下の都道府県を含むものになります。
　近畿圏　：　大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の２府４県
　北海道圏　：　北海道の１道
　首都圏　：　東京、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨の１都７県
〇港別の貿易額は、その港を管轄する税関官署の貿易額を集計したものとなります。
〇価格はＦＯＢ価格で集計し、船舶（飛行機）出港の日をもって計上しています。
〇表示単位未満は四捨五入、「0」は単位に満たないもの、「－」は実績なしのものを指します。
〇本特集における「ウイスキー」は、輸出統計品目表のHS2208.30-000（ウイスキー）に、「焼酎」は、輸出統計品目表のHS2208.90-100（しようちゆう）にそれぞれ分類されるものを集計したものです。

※本資料を他に転載するときは、大阪税関の資料に基づく旨を注記してください。
※本資料に関するお問い合わせは大阪税関調査部調査統計課までお願いします。
（電話06-6966-5385）